



特別編集委員 橋本 五郎

拝啓 香川俊介様  
あなたがお亡くなりになって  
1年半になろうとしています。  
昨年12月には財務官僚・香川俊  
介追悼文集『正義とユーモア』  
が出版されました。

心のこもった追悼集はその人  
のすべてを照らすものだとつく  
づく思いました。官房長官の普  
義偉さんはこんなエピソードを  
明らかにしています。

香川さんが財務次官として消  
費税の10%増税に向けて動い  
ていると聞いた菅さんは、あな  
たを首相官邸に呼んで、静かに  
論じたといいます。「消費税の  
引き上げはしない。おまえが引  
き上げて動く政局になるから  
困る。あきらめてくれ」

香川さんはこう答えたそうぞ  
すね。「長官、決まったこと  
には必ず従います。これまでぞ  
うしてきました。ですが、決ま  
るまではやらせてください」  
あなたの人となりを示す、面  
目躍如たる逸話です。

香川さんは、千葉大学教育学  
部付属中学校から東京の私立開  
成高校に入り、東大法学部を卒  
業、財務省では官房長、主計局  
長、次官とエリートコースを歩  
みました。

2012年8月の「社会保障  
と税の一体改革」に関する3党  
合意は、官房長としての香川さ  
んの下支えなしにはありえな  
かったといわれています。その関  
連法が成立した直後に入院、そ  
の後復帰しましたが、次官時代  
に癌再発がわかり、最後は車椅  
子で使命を全うしました。

それにしても、人脈の広さ、  
深さがこれほどまでとは思って  
もみませんでした。財務官僚と  
して身を削るよつに仕事に打ち  
込みながら、友とクルメを求め、

# 「吏道」を求め続けた一生



一緒に旅したことが追悼集に満  
載されています。

追悼文集発行委員会の代表で  
30年来の親友である神蔵孝之さ  
ん（イマジニア株式会社社長）  
がそんな香川さんについて語っ  
ておられます。

「彼の凄いとこころは、政治家  
たちに一人で突撃していった主  
張すべきを主張するの、持ち  
前の愛嬌と誠実さで、敵にな  
らないどころか仲良くなってし  
まうところでした」

「彼は『論道』的な手法を取

れた財務省2階の官房長室には  
あなたが好きだった観葉植物も  
机もソファもその時のまま残っ  
ているそうです。そして、こう  
漏らされているのです。

「病を告げられた後もこの部  
屋で一人で苦しい思いをされて  
いたのだと思う。人の出入りの  
少ない部屋に一人でいる時、こ  
の同じ光景を香川さんも眺めて  
いたことを思うと胸がつまる」

香川さん、あなたのお母さん  
は「母の鑑」です。あなたが  
亡くなる8か月前に他界されま  
したが、お母さんの周りの人た  
ちは、あなたが東京で役人をし  
ていることは知っていても、財  
務省の次官だったことは知らな  
かったそうです。神蔵さんは  
書いています。

「お母様にとつて香川さんは  
自慢の息子だったに違いありま  
せんが、そのことを周りにこと  
さらけに吹聴することはなかつた  
のです」

香川さんと思う時、「吏道」  
という言葉が浮かんできます。  
警察官僚から政治家になり、中  
曾根内閣の官房長官を務めた後  
藤田正晴さんは、『政と官』講  
談社の中で、役人が一つの政  
策に固執する「思い上がり」を  
厳しく戒めています。

「役人は政治に対して政策を  
押しつけてはならない。政策立  
案に必要な資料を揃え、それら  
の資料を分析し、政策案を策定  
する。一つの政策に固執するの  
は越権行為である。決定するの  
は政治家である」

その通りだと思います。その  
一方で、役所に限らずどんな世  
界でも、いざというときに上司  
やトップに「諫言」できなけれ  
ば、その組織はためになるので  
はないのか。そのことだとえ  
にらまれようとも、恐れてはい  
けないのではないのか。

香川さん、あなたは「諫言」  
できる「吏道」という道歩ん  
できたよつに思われるのです。  
(今回は2月11日掲載予定です)